

横浜市景観ビジョン

景観づくりが、横浜を豊かにする



第4章：景観づくりに関する取組

市民・事業者・行政が連携して、円滑に景観づくりを進めていくために、行政が取り組む景観づくりの方針を示しています。

1. 創造的協議により質を高める景観づくり



- 景観条例の活用
- 協議の機会の創出
- 協議の円滑化

2. 制度の活用により質を担保する景観づくり



- 景観計画の運用
- 地区計画の活用
- 景観協定の活用
- 景観関連制度の連携活用

3. 景観に係わる事業の実施と調整



- 公共空間や公共施設のデザイン調整
- 景観資源の保全と活用
- 空間の活用等による都市景観の演出
- 景観行政の総合的な体制強化

4. 景観づくりの普及と協働



- 景観づくりの普及と発信
- 景観づくりの担い手の充実
- 市民・事業者の取組への支援

別冊：実践ガイド

事業者や市民の皆さんが景観づくりを進める際に参考となる事例を集めた「実践ガイド」を作成しています。具体的な事業の中で景観ビジョンの考えが実践されている事例や、身近な場所でより良い景観づくりを進める際のヒントとなる、まちづくりの事例を紹介しています。

1. 事業を通じた景観づくりの実録集

主に事業者の皆さん向けの、建築行為等の事業における積極的な景観づくりの意図や工夫を記載しています。



人の活動を考えたデザインにより、賑わいが生まれた駅前広場【みなまきみんのひろば】



ウォーターフロントエリアの特色をいかした新たな景観を形成する建築物群【北仲通北地区再開発】



工事中の仮囲いを活用した、街の賑わいを高める演出【JR横浜駅西口仮囲いプロジェクト】

2. 身近な景観づくりのヒント集

主に市民の皆さん向けの、身近なまちづくりから景観を良くする手がかりをまとめています。



テラスを取り入れたリノベーションにより、地域に開かれた多世代・多文化交流拠点【casaco(カサコ)】



リノベーションにより団地住民の新たな交流の場となった広場【左近山団地】



市民の手により維持管理され、地域への愛着を生んでいる桜並木【柏尾川】



どんな景観を目指したの？

景観づくりの考え方

景観づくりへの想い

どうやってその景観をつくったの？

景観を良くするポイントは？

どうやってその景観をつくったの？

景観の魅力と個性を発見するためのキーワード

横浜市では、市民・事業者・行政が協力しながら、長い年月をかけて、豊かな水・緑環境や歴史的建造物などをいかした先進的なまちづくりを進めてきました。その取組の結果として形成された景観は、横浜固有の魅力であり、「横浜らしさ」の重要な要素となっています。

これからも「住みたい」「働きたい」「訪れたい」と思える豊かな横浜であり続けるため、互いに協力し、景観づくりを絶え間なく、力強く進めていく必要があります。

横浜市景観ビジョン

「横浜市景観ビジョン」は、横浜市の景観づくりにおいて目指すべき方向性を長期的な視野に立って示す、景観づくりの指針です。平成16年に「景観法」が制定され、「景観計画」や「景観条例」等の景観施策を体系化するにあたり、「地域ごとに特徴ある歴史や文化」「魅力的な街並みの形成」「水や緑をいかしたまちづくり」など、景観づくりで大切な理念を示すため、景観ビジョンを平成18年に策定、平成31年に改定しました。



色彩やスカイラインの調和により形成された魅力的な街並み



歴史的建造物や銀杏並木をいかした風格ある歩行者空間の形成



長年地域に親しまれた歴史的建造物をいかしたまちづくり

横浜市では景観ビジョンを活用し、これからも市民・事業者の皆さんとともに、より一層きめ細かく景観づくりを進めます。

■ 郊外部における、地域から愛される魅力ある景観づくり

駅前再開発など地域の新たな魅力となる景観づくりや、地域の自然や歴史、広場等の資源をいかしたまちづくりにおいて身近な景観づくりを進めます。これにより、郊外部においても、地域から愛着をもたれるような、魅力ある景観づくりを進めます。

■ 都心部における、きめ細かい景観づくり

今まで進めてきた横浜の顔となる都市景観形成を進めつつ、多くの来街者の目に触れる空間にも着目し、都心部ならではの個性をより一層引き出す、きめ細かい景観づくりを進めます。 ※参考となる事例は実践ガイドに掲載して紹介しています。

第1章：横浜の景観づくりと課題

第1章では、横浜市がまちづくりの中で取り組んできた景観づくりの流れや創造的協議についてまとめています。

現在、景観は横浜の特徴かつ最大の魅力として評価され、多くの観光客を呼び寄せ、市民の愛着も育んでいます。

一方で、今後想定される人口減少や世界規模の競争社会などに対応し、市民生活の豊かさや観光振興・企業誘致の観点からも「選ばれる都市」になるためには、制限による景観の保全と同時に、市民や事業者の創意工夫をいかした景観づくりが必要です。

■創造的協議

私たち市民・事業者・行政が共に議論することにより、具体的な場所における横浜らしい景観や共通の目標を設定し、様々なアイデアを出し合いながら、魅力と個性ある質の高い景観づくりを行う手法を「創造的協議」と呼びます。

この「創造的協議」の手法そのものが横浜の景観づくりを行う上での最大の特色といえ、今後も横浜市は、「創造的協議」による景観づくりを進めていきます。

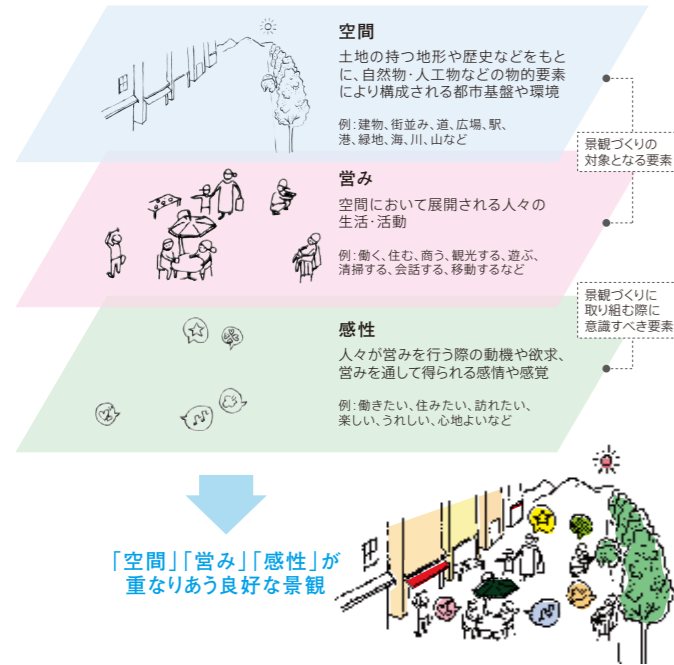
第2章：景観を考える際の基本的事項

第2章では、景観と景観づくりの捉え方や景観づくりの意義、景観づくりを進める市民・事業者・行政の役割等を示しています。

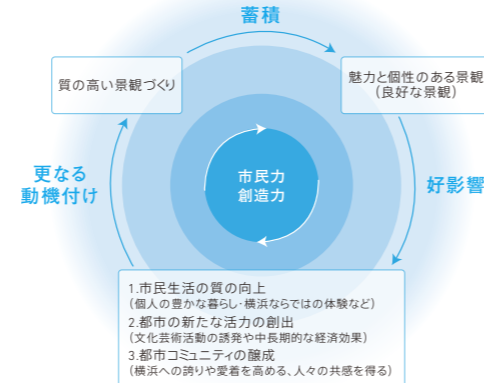
■景観と景観づくり

景観ビジョンでは、街並みや緑地などの「空間」とそこで住む、働く、活動する人の「営み」が重なり合い、目に見えるかたちとなってあらわれたものを「景観」としてとらえます。

景観は、横浜の中でも地域ごとに異なるものであり、地域ごとの魅力と個性のある景観(=「良好な景観」)を保全・創出する手法を「景観づくり」とします。景観づくりを行う上では、空間だけでなく人々の生活や活動、感情や感覚も意識して景観づくりを進めることが重要です。



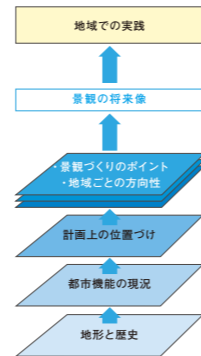
■景観づくりの意義



横浜らしい良好な景観は、潤いのある生活環境や街の活力を生み出し、地域のコミュニティを育みます。街全体が元気になることで、中長期的な経済効果や個人の人々の豊かな生活につながるとともに、私たちが街への愛着や誇り(シビックプライド)を抱ききかけとなります。これが更なる動機づけとなり、質の高い景観づくりに取り組む好循環を生み出します。景観づくりの好循環を生み続け、横浜を豊かにします。

■景観の将来像を考える手がかり

地域の将来について想いを巡らせ、個性的で魅力ある景観の将来像を考えるためには、地域ごとの「地形と歴史」、「都市機能の現況」、「計画上の位置づけ」といった、過去から現在、将来にわたる長期的、広域的な視点を意識することが大切です。



■市民・事業者・行政の役割

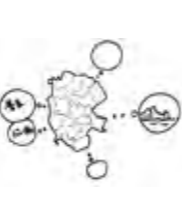
市民は個人からできる身近な景観づくりの担い手です。市民自らが主体となって景観づくりに取り組むことにより、各地域の多様な景観を一層魅力的なものにすることが期待されます。



事業者は地域の一人として地域の魅力づくりに参加することや、事業者ならではの専門性をいかした創造力を発揮することが期待されます。



行政は自ら行う事業において良好な景観の形成を図るとともに、市民・事業者が主体となった活動と協働して景観づくりを行っていきます。



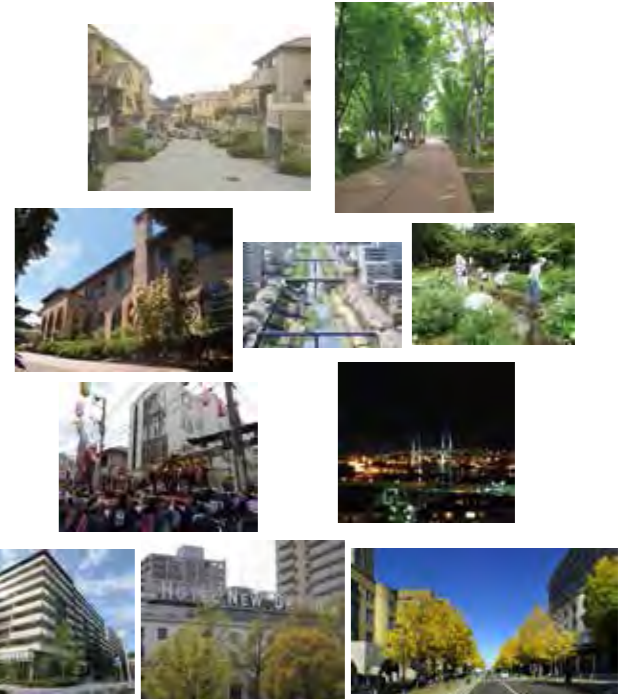
第3章：景観づくりの方向性

第3章では、目指したい景観や身近な景観を考える手がかりとなる、景観づくりの方向性を示しています。

■横浜らしい景観をつくるポイント

今ある景観と調和しながら、新たな魅力となる「横浜らしい景観」を生み出していくために、景観づくりに関して大事なポイントをまとめています。このポイントは複合的に重なり合うもので、いくつかのポイントを組み合わせた景観もあれば、1つのポイントに特化した景観も考えられます。

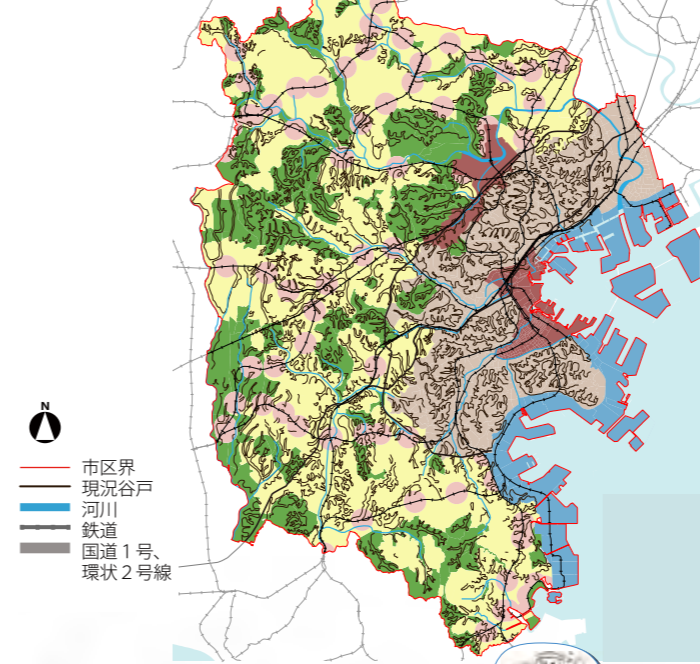
- ① 街の個性と調和の取れた魅力的な街並みの形成
- ② 安全で快適な歩行者空間の景観づくり
- ③ 歴史的景観資源の保全と活用による景観づくり
- ④ 水と緑の保全・活用と創出による景観づくり
- ⑤ 身近な生活空間での景観づくり
- ⑥ 人々の交流や賑わいの景観づくり
- ⑦ 街の個性を引き立たせる夜間景観
- ⑧ 周囲に比べ、高さや大きさのある建築物の景観的工夫
- ⑨ 屋外広告物の景観的配慮
- ⑩ 想像力がかきたたられ、物語性を感じられる景観づくり



■地域ごとの景観づくりの方向性

都市として広大な横浜の景観的特徴は、地形、歴史、都市機能、計画上の位置づけなどから大きく6つのエリアに分類できます。横浜ではモザイク状に景観が混ざりあい、それぞれのエリア内においても地域ごとに様子は異なります。分類したエリアの景観がイメージできる断面スケッチと、各エリアが今後目指す景観づくりの方向性を示します。景観づくりに取り組む地域に近いエリアを参照することで、具体的な景観の将来像を考える手がかりとなります。

横浜の景観構成図



臨海部

物流・生産機能の再編などの変化にあわせて、スケールの大きさをいかした景観づくりを進めていきます。

都心部

多様な人々の交流や街の活力を生む横浜の顔として、都心臨海部と新横浜都心の2大拠点の景観づくりを進めていきます。

高密度な既成市街地

親しみのある街並みや高低差をいかした景観づくりを進めていきます。

郊外駅前および周辺

地域住民が街への誇りや愛着を深め、来街者と共に賑わうなど、様々な人の交流をいかした景観づくりを進めていきます。

郊外住宅地

年代や生活スタイルにあわせた、様々な街の使い方による身近な景観づくりを進めていきます。

水・緑と農のある郊外

身近にある自然環境を実感できる、水・緑や農とのふれあいを通した景観づくりを進めていきます。



例) 郊外駅前および周辺